ピーちゃん

秋山亜由子

ゆき子
おつかい
白菜と
いんげん
言って
ごらん
は……
はく
・・・・
白菜と
いんげん下さい
ひくひくひくひく
は
はく
さい
い
と
いん
げん
くだ
さい

そんなに
苦しそうに言う
くらいなら
行かなくていいよ
いや
おつかい
行くの
全く
毎日こんな調子じゃ

和子ーっ
お客さーん
はいはい
じゃ
頼んだよ

ピシャッ
オキャクサーン
イラッシャーイ

白菜と
いんげん
下さい

白菜と
いんげん
下さい
言えるよ

ほっ
早いとこ
行っといで

あの茄子
いくら?
大根としいたけと
人参と
あと しそ頂戴

ちょっとちょっと
お嬢ちゃんが
先だよ

今日は
何かな?

はいよ
白菜といんげんね
ピーちゃんには
小松菜のオマケだ

白菜
いんげん

はい
毎度あり

マイド
アリー

フル〜ルルル ル フリル〜 ル〜フリ リラル フル〜

フルテリリテリ リルー ルテリリルテラ ルレリー

ゆきちゃん
ブー太郎はじまるよ
うーん
どうした
耳なんか
ふさいで
聞いてるの
音楽
笛の音
笛？
そんな音
するかね
婆ちゃん
耳遠いからねえ
あ～
疲れた
おや
もう
上がり
かい

ゆき子幼稚園で
ろくすっぽ口きいてないいって
さっき桜井さんの
奥さんに言われたのよ
やっぱりそういう学校
入れた方がいいんじゃないかって
ちゃんと
喋ってるじゃないか
どこが
ちゃんと喋っ
てんのよ
ちょっと人みしりが
強いくらいのもんだ
いちいちよそ様と
比べてたらきりがないよ
余計なことを言う人は
幾らだっているんだからね
そうやって
母さんが甘やかす
から悪いんだ
ほんとにお前は
いつまでたっても
口の減らない
子だね
わ〜っ
オトーッチャン
オカーッチャン
オバアチャン
ユッキチャン
鳥ばっかり
べらべら
喋って

お
おかあ
お
ひく
ひく
ひく
ひく
ゆきちゃん お二階 行っといで
ブー太郎 再放送で 見れるから
ピシャッ
むぎゅう
おとうさん
おかあさん
おばあちゃん
ピーちゃん

いらっしゃいい
今日は何かなあ
ふううう〜〜っ
ぶ
た
あ
うう
あああ
あ
ん? なに?
あれ もしかして おつかいの紙 なくしちゃったのかい
いいよいいよ 電話で聞いたげるから

豚肉
こまぎれ
100g 100円

豚コマ
500
ね

マイドアリ――

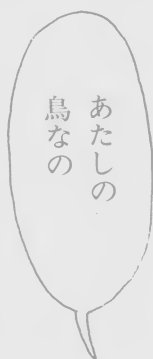
ジジジジ
パタパタパタパタ
どしん

ささ
さ
さわ
さわるなっ

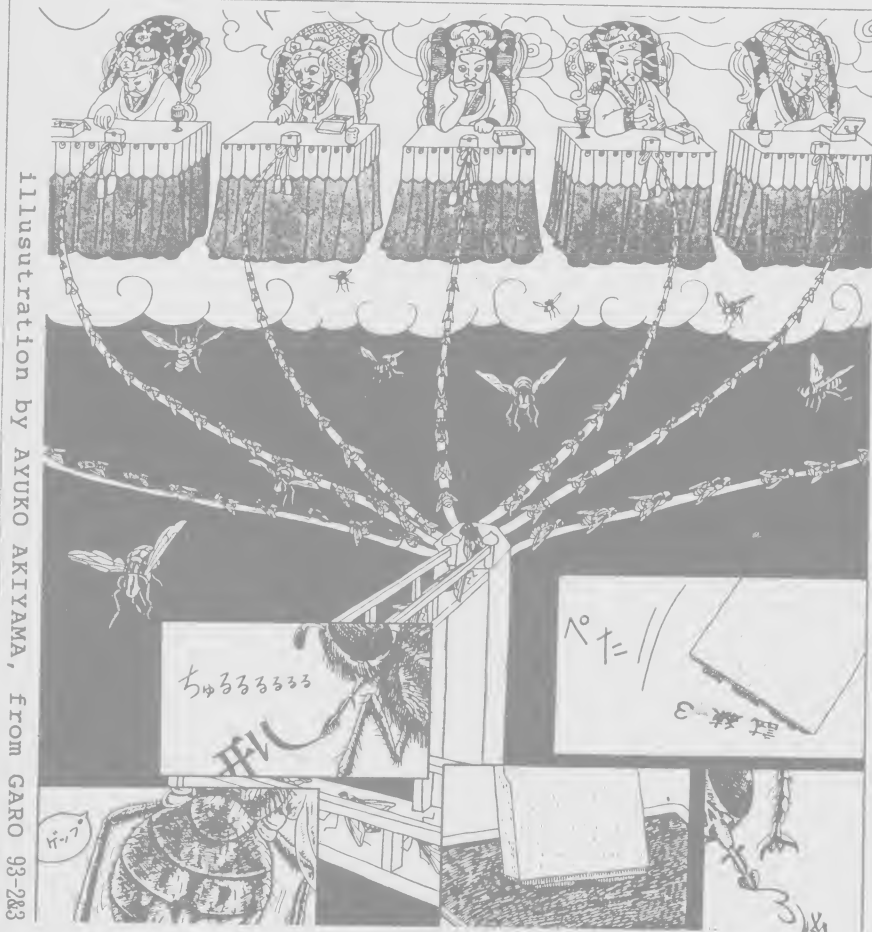
あ
あ
ち、違うよ
ご、ごめん
あ、慌てて
たんだ
ぶ、ぶつかって
ご、ごめん
ケ、ケ、ケガ…
バサバサバサ
あ
フル〜ラリ〜リラリフル〜
ル〜ラリ〜
ルラリ
フル〜
ル〜ル〜

どうして
フ……
フルート ソナタ
ぼくの
フ、フ、フフ
フルート
フルートって
いうのね
うん
うん
そう
だよ
この子ね
この子
あたしの
鳥なの
おわり

秋山さんの「線」について

やまだ紫

絵が好きで描いてるんだナァ……と思えて好感が持てる。うらやましい気もする。丸ペンで描いておいでの様ですが、丸ペンは描く作業が持続しないものなんですけど、秋山さんはもうずーっと描き込んでるのね。それも力が抜けて無心に線を描いているという感じ。愛着があるんでしょうね。紙やインクや丸ペンにも。そういう作品に出会うと私はちょっと自分が恥ずかしくなる。好きだから描く、というのとはかけ離れてきてしまった様に思うから。スクリーントーンを殆ど使わないのは意識してそうしているのかな。

漫画を描く人の中にはたまに、スクリーントーンを使う事を罪悪視する人もいる。何もそんなにガチガチに主義を持たなくても……と思うんだけど案外陥り易い穴なんですねコレが。実は私も若い頃陥ってたんですけどね。今じゃ沢山使ってますが、その昔は、なんかイケナイ事の様な気がしてた。それで線を矢鱈に描き込んじゃうからどんどん画面が汚くなって困った。空間恐怖みたいなもので、例えばフスマを描くんでも白いまんまのフスマじゃ不安で斜線を入れたり、あろう事か破れ目とか継ぎハギを描いたりしてんの。そういう自分ではバカリアリズムって言ってますが……。

秋山さんはそういうのも、すでに通り越していて画面処理も美しいし、立派ですよね。

illusutration by AYUKO AKIYAMA, from GARO 93-2&3

テーマは民俗学とか民話あたりのものでしょうか、ご本人は「ガロ」のインタビュウで「虫が好きだから」と言われていた様だけど日本の民話の中には人が死んで耳や鼻などの穴から死んだ人の魂が虫の姿になって昇天するという話が少なからずありますね。松谷みよ子さんの「現代民話考」の中でも虫や蝶やエクトプラズムの様なものになって出てきて家族の中をヒラヒラ飛んだりする話がある。加賀乙彦さんの「宣告」の中にもそれと明示された表現ではなかったけれど、処刑前の囚人が面会の家族に「死んだら鳩になって会いに行く」と言い、処刑のあと家族の眺める窓外に一羽の鳩がいつまでも視界をはばたいたという家族の証言が記述されてあった。

そういった世界を秋山さんなりの表現で出来る可能性を見せていて楽しみですね。もうちゃんと自分の世界が出来ている気がします。

描き込むことで画面はどうしても暗い印象を持たれがちだけれど、陰影で「色」を見せている場合は多いし、簡単な一本の線という事にこだわらなくていいと私は思う。黒っぽいとすぐ暗いっていう輩はこの先きっと出てくると思うけど気にしないで欲しい。才能と努力の割には地味な仕事になる可能性が多いかもしれないけれど、描き続けて欲しいと思う人の一人です。

秋山亜由子のすなおな表現意欲に期待する

呉智英

秋山亜由子の『一人娘』を読んだ時、ああ、いい新人が出て来たな、と思った。昨年十二月号本誌の月例入選作品である。続く翌一月号の『虫ノ神』もよかった。ともに、けれん味のないしっかりした構成で、ファンタジーが抒情的に描かれている。秋山にはまだこの二作しかないのであれこれ論じることもできないが、将来を期待していいだろう。四月号では長井勝一賞の佳作に選ばれている。「ガロ」編集部としても有望新人と見ているようだ。

秋山のデビュー作を読んだ時、何故私が心惹かれたのか。それは、私が既に彼女の父親の世代になっているからである。秋山を自分の娘のように見て彼女の『一人娘』に感動したわけではむろんない。彼女らに先行する私たちの世代の〃夢の島〃のむなしさを知る年齢に既になった、という意味だ。

〃夢の島〃の話は、根本敬の『怪人無礼講ラバイ』の解説にも書いた。豊かで文化的な生活なるものを夢見たその残骸で作られた巨大なゴミ捨て場が、東京湾上の夢の島だ。同じように、我々は、前衛的だの実験的だのと称する夢の残骸で作られたゴミ捨て場を、歴史の流れの中に持っているはずだ。東京湾上の夢の島を見る時に感じるむなしさと同じものが、歴史の流れに気づくことができる年齢になれば、そこに発見できるのだ。

私は小説家のねじめ正一が大嫌いである。会ってないからそう言うんだよ、会ってみるといい奴だよ、という人がいる。ねじめがそういう人間だとすれば、ますます大嫌いである。

ねじめは、七、八年前までは〃過激な前衛詩人〃であった。日本語になっていない日本語で〃詩〃を書き、それを既成の知的権威への反逆であるかのように語った。評論家の上野昂志は、ねじめは権威へ挑戦する前衛詩人であると、ほめちぎった。便器にまたがり、チンポだのウンコだのわめきちらす〃パフォーマンス〃とやらも、ねじめはやった。文学はスキャンダリズムだと公言し、冤罪事件で苦しむ人を真犯人だと名指し、彼のありもしない〃愛人〃問題について〃暴露〃した。

そこまでなら、実は全然問題はないのだ。そういう前衛的で反逆的な詩人はいたってかまわないからである。しかし、ねじめのこれら〃前衛的〃な言動は、人情噺作家として売り出すためのチンドン屋行為だったのである。今やねじめは〃純情作家〃である。高円寺〃純情〃商店街の名付け親である人情オヤジだ。産経新聞紙上では、悩める善男善女のために人生相談もやっている。もちろん、数年前までの黒メガネ・アロハシャツの偽悪的スタイルはどこへやら、いかにも文化人然とした穏やかな眼鏡とおしゃれな背広姿だ。

それなら最初から人情噺作家としての道を歩めばよかったのだ。失恋した女に励ましの言葉を与え、人生の選択に悩む高校生を叱咤したいのなら、便器にまたがって、キンタマだのマンコだのとわめかなければいいのだ。ねじめの前衛もどきは、本物の前衛に対して失礼である。ねじめを前衛と信じてその後に従った人たちの夢は、ゴミとなって夢の島を作る。ねじめを前衛的とほめちぎったばかりに、上野昂志は私にバカ呼ばわりされる羽目に陥った。ねじめに賭けた上野の夢はガラクタとなり、むなしく夢の島に流れて行った。

「青年の客気」という言葉がある。「客気」の「客」は「主・客」の「客」。本来のあるじではなく、一時的に住みついた客のような気分、という意味だ。「青年の」という形容詞がつくのは、青年はえてして客気に支配されがちだからである。そして、「ガロ」の新人も概してそうだ。

そんな中で、すなおな主題と技術を持った秋山亜由子のデビューは喜ばしい。すなおとは言うものの、必ずしも一般商業誌向きではなく、その意味では「ガロ」にうってつけとさえ言えよう。もちろん、作風の幅を広げて商業的に成功するのも、大いに喜ばしいことだけれど。